

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：第20回名古屋大学ホームカミングデイ meidai SAKE テラスの様子

上段右：全学同窓会タイ国支部 バンコク事務所10周年記念式典レセプション 杉山総長の開会の辞

下段左：豊田章一郎博士之像除幕式 左から松尾機構長、杉山総長、豊田トヨタ自動車代表取締役会長、柴田全学同窓会会長

下段右：第20回名古屋大学ホームカミングデイ 名古屋大学の集い 名古屋フィルハーモニー交響楽団・ソリスト4名・混声合唱団名古屋大学コール・グランツェとの共演

Upper left : The 20th Nagoya University Homecoming Day: a view of the meidai SAKE Terrace

Upper right: The Nagoya University Alumni Association Thailand Branch Bangkok Office 10th Anniversary Commemorative Reception: President Sugiyama's opening address

Lower left : The unveiling ceremony for the statue of Dr Shoichiro Toyoda. From the left: Seiichi Matsuo, Naoshi Sugiyama, Chairman of the Board of Directors of Toyota Motor Corporation Akio Toyoda, and Masaharu Shibata

Lower right: Coming together at Nagoya University for the 20th Nagoya University Homecoming Day: Nagoya Philharmonic Orchestra, 4 soloists, and Nagoya University's mixed choir, Chor Glance, perform together

Contents

特集 第20回ホームカミングデイ報告…………… 2
Report on the 20th Annual Homecoming Day

活躍する会員たち…………… 4
NUAL People in Action

特集2 豊田章一郎博士之像除幕式…………… 8
The Unveiling Ceremony for the Statue of
Dr Shoichiro Toyoda

同窓会ニュース…………… 9
NUAL News

事務局からのお知らせ…………… 16
From the NUAL Office

特集では、20周年の節目を迎えた名古屋大学ホームカミングデイと、豊田章一郎名古屋大学全学同窓会名誉会長の胸像除幕式の様子をお伝えします。活躍する会員たちのコーナーでは、国際連合工業開発機関の石川さん、大阪公立大学の神谷さんにお話いただきます。同窓会支援事業の報告も6件ご紹介します。

In our special features, we bring you reports on the milestone of the 20th Nagoya University Homecoming Day as well as the unveiling ceremony for the newly installed bust of Shoichiro Toyoda, Honorary President of the Nagoya University Alumni Association. In NUAL People in Action, we speak to Akemi Ishikawa of the United Nations Industrial Development Organization and Nobuo Kamiya of Osaka City University. We also report on 6 NUAL Support Projects.

第20回ホームカミングデイ報告

Report on the 20th Annual Homecoming Day

名古屋大学全学同窓会代表幹事
名古屋大学副総長
木村 彰吾



1 第20回ホームカミングデイ

2024年の第20回ホームカミングデイは「記憶の足跡 未来への約束」をメインテーマとして、20周年にふさわしいイベントが開催されました。盛り沢山の内容で全てをこの紙面でお伝えできないので、20周年企画を中心にご報告いたします。

プレイベントの企画では、「めいだい きゃりあかふえ」、「NU3MT NAGOYA University 3 Minute Thesis competition」に加えて、「みんなのキオクきろくプロジェクト」を実施しました。これは、卒業生を中心に名大にまつわる思い出写真を募集し、Common Nexus 建設工事の囲い壁に掲載するという企画です。掲載できる枚数以上にご応募があったため、ホームカミングデイ特設サイト上にてスライドショー動画をご覧いただけるようにいたしました。「思い出に浸れた」「当時の思い出が蘇った」「東京でも是非開催していただきたい」といった声が寄せられ、20周年のプレイベントにふさわしいものとなりました。

10月19日のホームカミングデイ当日は、「名古屋大学の集い」が開催されました。杉山直総長、柴田昌治全学同窓会会長よりご挨拶をいただき、代表幹事の木村より令和5年度の全学同窓会の活動についてご報告いたしました。

その後、国際交流貢献顕彰表彰式が執り行われ、今年度受賞された3人の表彰式を行いました。そのうち2名は全学同



名古屋大学の集い 国際交流貢献顕彰表彰受賞者

窓会バン格拉デシュ支部のモハマド・アブル・カシユさん、全学同窓会タイ支部長のシリポン・ワチャワルクさんです。今年度受賞者の皆さまからは一人ずつコメントをいただき、名古屋大学での留学経験を生かして活躍されている様子をお聞きし、大変喜ばしく思った次第です。なお、国際交流貢献顕彰表彰を受けられた方は、全学同窓会共催の「名古屋大学在外卒業生との交流会」にも参加されました。

国際交流貢献顕彰表彰式に引き続き、NU3MTの表彰式・エキシビジョンが行われました。10月11日に杉山総長の司会・進行で開催された「NU3MT NAGOYA University 3 Minute Thesis competition」において視聴者投票によりグランプリを受賞された工学研究科の沖田ひかりさんと、総長特別賞受賞者の前田明里さんの表彰式を行いました。今回はコンテスト当日に所属研究室から寄せられた応援動画も会場スクリーンにてご覧いただき、その後2人から3分間の研究発表をエキシビジョンという形で再演いただきました。

休憩を挟み、「名古屋大学の集い」は、松井慶太氏の指揮による名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートに移



名古屋大学在外卒業生との交流会 集合写真



名古屋大学の集い NU3MTの表彰式・エキシビジョン グランプリを受賞された工学研究科の沖田ひかりさん

りました。今回の演目はホームカミングデイ20周年に相応しく、「ベートーヴェン 交響曲 第九番 ニ短調 作品125（合唱付き）」です。ソリスト4名をお迎えし（内テノールは本学卒業生）、合唱パートは昨年に引き続き混声合唱団名古屋大学コール・グランツェの学生に出演いただき、美しい歌声とオーケストラの音色とのコラボレーションをお届けすることができました。奇しくも、2024年はベートーヴェン 交響曲 第九番の初演から200年ということもあり、大変好評でした。

「名古屋大学の集い」の終了後は、第20回ホームカミングデイの特別企画として、会場を豊田講堂テラスに移し、「N's Bar」と「meidai SAKE テラス」が開催されました。「N's Bar」は松井慶太氏と杉山総長によるトークセッションで、お二人の音楽やプライベートにまつわる様々なお話が繰り広げられました。

「meidai SAKE テラス」は、豊田講堂前庭一面に客席を配置、キッチンカー9台にマルシェテナント9店舗が出店し、ホームカミングデイに参加された方の交流の場として企画したものです。16時過ぎにホームカミングデイ20周年を記念して鏡割りを行い、多くの方に参加いただきました。「これまでのHCDでは無かった新しい企画だったか」と思い、とても楽しめた。これまで声をかけても参加してくれなかった同期の卒業生も、この企画なら、ということで来てくれたので、会うきっかけとしても良かったように思う、「地元住民や在学生、OB・OGの多くが各属性の違いを乗り越え楽しむことができた」という感想もあり、大変良かったと思います。また、豊田講堂テラスではデジタル人文社会科学研究推進センターによる最新のAR技術で豊田講堂のバックにピラミッドを再現するという「名古屋大学に大ピラミッド出現!」という企画も並行して行われており、好評を博しておりました。

名古屋大学の集いには豊田講堂での対面とアーカイブを合



meidai SAKE テラスの様子

わせて3,700名ほどが参加、「N's Bar」と「meidai SAKE テラス」には3,300名ほどが参加されました。また、各学部や研究科などの部局のイベントに参加された方も合わせると、第20回ホームカミングデイ全体の参加者はのべ1.5万人となり、対前年比で50% 増となりました。

2 全学同窓会評議員会について

ホームカミングデイ当日の全学同窓会評議員会は、対面形式で開催されました。柴田会長のご挨拶の後、審議に移りました。審議事項は和田壽弘顧問の評議員就任の1件で、審議の後承認されました。報告事項は令和6年度の活動計画であり、シンガポール支部とエジプト支部の設立準備が進んでいること、また卒業生のうち愛知県には5万人余が居住していることから当地での同窓生ネットワークの強化を検討していることが説明されました。評議員会の後には懇談会が開催されました。懇談会には、米国支部副支部長の松本均氏と同支部幹事のダスティン・カミングス氏、名古屋大学の役員も参加し、同窓会や大学についての意見交換が活発になされ、参加者間の交流も深まりました。

引き続き、皆様には全学同窓会への物心両面に渡るご支援を是非賜りますようお願い申し上げます。



松井慶太氏と杉山総長によるトークセッション



全学同窓会評議員会

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界における活躍ぶりをご紹介します。第43回は、国際開発研究科で修士学位を取得され国際・農業農村開発の分野でご活躍の石川さん、理学研究科で博士学位を取得されタンパク質の結晶構造解析の分野で長年ご活躍の神谷さんにお話しいただきます。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. In this 43rd installment, we speak to Ms Ishikawa, who earned her Master's degree at the Graduate School of International Development and now works in international agricultural and rural development. We also hear from Dr Kamiya, who earned his PhD in the Graduate School of Science and has since been working for many years in the field of protein crystal structure analysis.

いしかわ あけみ
石川 明美さん



■略歴

1996年4月～1998年3月	名古屋大学国際開発研究科 国際開発専攻 博士前期課程入学・修了 (国際開発修士)
1998年4月～2003年4月	内外エンジニアリング(株) 海外事業部
2003年5月～2005年5月	パンフィック・コンサルタンツ・インターナショナル(株) 農業開発部
2005年7月～2008年7月	(有)石川コンサルティング・インターナショナル(個人コンサルタント会社)
2007年4月～2011年9月	東京大学総合文化研究科国際社会科学専攻国際社会科学系『人間の安全保障プログラム』博士後期課程入学・修了(国際貢献博士)
2008年8月～2010年9月	在ラオス日本大使館 経済協力班(専門調査員)
2011年10～12月	東京大学総合文化研究科『人間の安全保障プログラム』ポスドク研究員
2012年1～5月	JICA 本部 農村開発部(専門嘱託)
2012年7月～2015年3月	JICA 派遣専門家(アフガニスタン、農業牧畜灌漑省)
2015年11月	国連工業開発機関(UNIDO: United Nations Industrial Development Organization) アグリビジネス部 入職(Technical Project Coordinator)
2018年7月～	国連工業開発機関(UNIDO: United Nations Industrial Development Organization) アグリビジネス部 現職(Industrial Development Expert)

1996年4月、まだ創立して5年目だった名古屋大学国際開発研究科(Graduate School of International Development: GSID)博士前期課程に入学しました。

私は、子どもの頃から、国際協力に関心があり、困っている人、脆弱な立場におかれている人々のために、何かできたら、と思っていました。そのため、南山大学の入試の面接の際、将来の希望についての質問に、「国際公務員になりたいです!」と明答しています。大学3年生の時、初志貫徹すべく外交官、JICA などを受験しましたが受からず、途方に暮れていたところ、ふと目にした『国際協力キャリアガイド』(国際協力ジャーナル社発行)に、国際公務員になるには、最低でも修士号が必要なこと、そして、日本でも国際開発関連の大学院が新設され、修士号が取得できることが書いてありました。具体的な大学名として、埼玉大学、神戸大学、横浜国立大学と共に、紹介されていたのが、GSID でした。

急いで受験の準備を始めたものの、1994年当時書店

で入手可能だった日本語の国際開発系の専門書は2冊。

『開発経済学』(渡辺利夫著、日本評論社)と『ODAの経済学』(小浜裕久著、日本評論社)でした。他にもあったのかもしれませんが、私の目に付いたのはこの2冊で、特に『開発経済学』に書いてあった「農村部の貧困の核は、土地なし農業労働者にある」という一節に衝撃を受け、誠に単純ながら、「土地なし農業労働者に焦点を当てて農村部の貧困の解消に役立つ研究をしよう!」と決意し、神戸大学、横浜国立大学、GSID を受験しましたが、全て不合格でした。

このため、国際協力の道は、諦めて故郷の札幌に帰ろうと思ったのですが、大学のゼミの西村貞夫先生や外交問題研究会でお世話になっていた渡邊純先生に励まされ、大学卒業後の1995年4月に渡米し、コロラド州 Economics Institute にて英語とマクロ・ミクロ経済学を学び直した後、1995年10月の GSID の入試に再挑戦し、1996年4月、晴れて GSID の門をくぐることとなりました。

GSID では、本当にたくさんのことを学びました。私の修士論文の指導をして下さった長田博先生に教わった「統計は、それぞれの数値の計算や取得方法、定義を確認することが、極めて重要」という教えは、その後の仕事や研究生活で、大いに役に立つと共に、常に心に留めてきました。また、GSID 全体がそうなのですが、長田先生のゼミはとても国際的で、たくさんの留学生がいました。イスラム教のラマダン月には、イスラム教徒は日の出から日没まで、食べ物どころか水さえも口にしないことを初めて知ったのは、イスラム教のゼミ生を考慮して、いつもゼミで先生が提供してくださるお茶やコーヒーを日没後に飲むことになった時です。当時スハルト政権下で、個人での渡航が難しかったインドネシアでの OFW (Overseas Field Work) も、目から鱗が落ちるような経験でした。ジョグジャカルタの村で、民泊を体験したり、ガジヤマダ大学の学生や、専攻も国籍も異なる GSID の学生たちと同じグループで共同調査したり。何よりも、それまで一度も発展途上国に渡航したことがなかった私には、「貧困」とは実際何を意味しているのか考える大きなきっかけになりました。JICA 青年海外協力隊帰りの同級生たちが、「必携は、トイレトペーパー、蚊取り線香、ビーチサンダル」と言っていたのも、腑に落ちました。長田博先生、廣里恭史先生、木村宏恒先生、倉澤愛子先生らが一緒に現地に入って、研究指導や支援をして下さったのも、本当に有り難く、貴重な経験となりました。

修士論文では、インドネシアでのコメの生産とそれに貢献する要素について、回帰分析を行い“*How to alleviate rural poverty based on agricultural development – a case of Indoensia*”を執筆しました。忘れ難いのは、修士論文提出締め切りのその日、研究室で必死に執筆を続けていた私に起こった悲劇です。い

きなり PC から、けたたましい音が鳴り出し、驚いて手を止めたところ、PC がウイルスに侵されていることが分かりました。その時点で、まだ「結論」と「参考文献」の執筆が少し残っていた私はパニックに陥りました。そこに手を差し伸べて下さったのが、当時博士課程の学生だった染矢さん（現 GSID 教授）など、同じゼミの博士課程の先輩方でした。お陰様で、なんとか締め切りに間に合い、1999年3月に博士前期（修士）課程を修了しました。

GSID 修了後は、開発コンサルティング会社、個人開発コンサルタント、在ラオス日本大使館（専門調査員）、東京大学大学院総合文化研究科『人間の安全保障プログラム』（博士研究員）、JICA 派遣専門家（アフガニスタン）を経て、2015年11月よりオーストリアに本部がある国連工業開発機関（UNIDO: United Nations Industrial Development Organization）のアグリビジネス部に勤務しています。専門は、農業農村開発（農業の社会経済的側面）、紛争やその他の危機の影響下にある地域・国での生計向上支援で、これまで、全世界20か国以上の発展途上国で、案件形成、実施、モニタリング・評価に従事してきました。例えば、南スーダンでは、政府とセレジオ修道女会と協力して、主に女性の国内避難民とそのホスト・コミュニティを対象とした食用油生産プロジェクトを、コンゴ民主共和国東部では、政府や東京大学等と協力して、脆弱な立場にある女性に就業機会を創出するためのバイオエタノール生産プロジェクトを構想・実施しました。

GSID での経験の全てが、今の自分を作り、そして、今の仕事に役に立っています。私は子どもの頃の夢が叶った非常に幸運な人間の一人です。これまで私を支援・指導してくださった全ての方々に感謝します。

かみ や のぶお
神谷 信夫さん



■略歴

1974年～1976年 名古屋大学理学部化学科
1976年～1981年 名古屋大学大学院理学研究科 博士課程（化学専攻）
1981年～1984年 名古屋大学大学院理学研究科 研究生
1984年～1985年 高エネルギー加速器研究所 フォトンファクトリー
1985年～2005年 理化学研究所
2005年～2010年 大阪市立大学大学院理学研究科 教授
2010年～2019年 大阪市立大学複合先端研究機構 教授
2019年～ 大阪市立大学のちに大阪公立大学 特別招へい教授

大学院学生時代

私は理学研究科の大学院学生として、化学科の固体化学研究室に在籍してタンパク質の X 線結晶構造解析（CSA）を始めました。最初に取り組んだ研究対象はブラジルナッツの貯蔵グロブリン（エクセルシン）でした。その結晶は複雑な形態の双晶であり、分解能、すなわち回折点を確認できる最大範囲は4 Å（オングストローム）程度で、構造解析には適さないものでした。そこで私はまず、エクセルシンをタンパク質化学的に調査し、単一でより高分解能の結晶を得るための条件を探る「結晶化問題」から研究に着手しました。しかし博士課程の5年間で過ぎても、またその後3年ほど研究生として研究を継続しても構造決定には成功せず、最終的にはエクセルシンに関する研究を断念しました。

CSA では、単波長の X 線を単結晶に照射し、膨大な数の回折点を含む回折像から各回折波の振幅を求めます。当時利用可能であった X 線源（封入管型）の出力は低く、また回折像は感度の低い X 線フィルムに記録していました。タンパク質の分子量は10 kDa（原子量の単位、キロダルトン）前後から時には100 kDa にも及ぶことがあり、回折線の強度は分子量に反比例して弱くなります。実験室で利用できる X 線源の出力については後に回転対陰極型 X 線源が現れて10倍程度改善されましたが、回折線とともに試料からのバックグラウンド散乱も増大して、この新しい X 線源を用いてもエクセルシンの分解能が不十分という「分解能問題」は改善されませんでした。

フーリエ変換によって結晶内の電子密度分布（ED）図を計算するためには、回折波の振幅と共に、その位相を知る必要があります（「位相問題」）。解析対象の分子量が1 kDa 程度までならば、直接法により、当時の大型計

算機で初期位相を計算することができました。タンパク質のように分子量が大きくなると直接法では解が得られず、重原子多重同型置換（MIR）法のみが頼みの綱となりました。しかし MIR 法では厳密に同型な重原子置換体が必要となります。エクセルシンではこの条件を満たす置換体は一つも見つかりませんでした。

エクセルシンの研究を断念した後、研究対象をタンパク質分解酵素（プラスミン）のタンパク性阻害剤に切り替え、構造を決定し博士号を取得しました。その分解能は中程度の2.8 Åで、側鎖の配向、特に阻害機構の中核となるグルタミン残基の配向については若干の疑問が残りました。タンパク質の CSA では、MIR 法に従って ED 図を計算し、それに手動で構造モデルを当てはめて初期モデルとし、その後分解能を漸増させながら構造モデルの精密化を繰り返しました。ここでモデルの構造から位相を計算することが ED 図を歪めている可能性が残ることは「モデルバイアス問題」と呼ばれ、CSA における根本問題の一つです。

理化学研究所時代

大学院の研究生の頃から2年半程度、私はつくばの高エネルギー物理学研究所フォトンファクトリー（PF）に滞在して高輝度の放射光ビームラインの建設に参加した後、理化学研究所（理研、埼玉県和光市）に就職してタンパク質の X 線結晶構造解析（CSA）に従事することになりました。上述したように大学院時代の研究は苦勞の多いものでしたが、その過程で浮き彫りになった CSA の根本問題（「分解能問題」や「位相問題」など）も、PF では高輝度放射光を利用して解決できる可能性を見出せたように思います。また PF のオープンな研究環境のもとで様々な分野の研究者とも交流することができ、その

後の研究生活に大きな影響を受けました。

オープンな研究環境は理研にもあって、多くの共同研究を進めることができました。光化学系 II (PSII) に関する沈建仁研究員（現在は岡山大学教授）との共同研究は1990年前後に始まり、現在もお継続されています。また理研が原子力研究所と共同で設置した大型放射光施設 (SPring-8) の共同チームにも参加して、1995年以降は兵庫県西播磨の現地で構造生物学用の CSA ビームラインを建設しました。

大阪市立大学時代

私は2005年に理研から大阪市立大学に転出しましたが、PSII の1.9 Å 分解能の結晶構造（図1参照）は SPring-8 の上記ビームラインを利用して解明することができました。葉緑体の光合成システムでは、二酸化炭素と水を原料として炭水化物を合成し、大気中へ酸素を放出しています。PSII の酸素発生錯合体（OEC、図2参照）は4個のマンガンと1個のカルシウム、5個の酸素原子と4個の水分子で形成された複合金属錯体であり、地球上に酸素発生型光合成が出現して以来の30億年の長きにわたり酸素を供給し続けています。光合成は生物の栄養源となる炭水化物を提供していますが、PSII が放出する酸素はその炭水化物を燃焼させて生命活動を維持するエネルギーを提供するものです。OEC の上でどのようにして水から酸素が発生するのか、OEC の構造が30億年もの長きにわたって維持されてきたのは何故か、もし

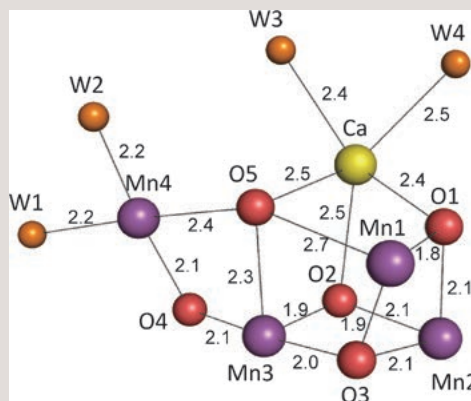


図2 酸素発生錯合体の構造。4個のマンガンは紫、カルシウムは黄、5個の酸素原子は赤、金属に配位した4個の水分子の酸素原子は橙。図中の数字は原子間距離（Å単位）。

この OEC の構造を模倣して新しい触媒を合成することができれば、高効率で長期間安定に動作する人工光合成系の中核を担うものになるのではないかなど、PSII と OEC の構造を見ていると新たな疑問と期待が湧いてくるような気がします。

若い方へのメッセージ

自然科学の分野では、若い人の夢や希望が実現できないことは多々あると思います。しかし仮にそうであっても、その原因を特定して解決策を模索した経験は、その人の確かな土台になると思います。またその過程では、共通の目標に挑む共同作業者をを見つけることができれば良いでしょう。若い人には自分が何をやりたいのかを見定めて、どんどん前に向かって進んで欲しいと思います。

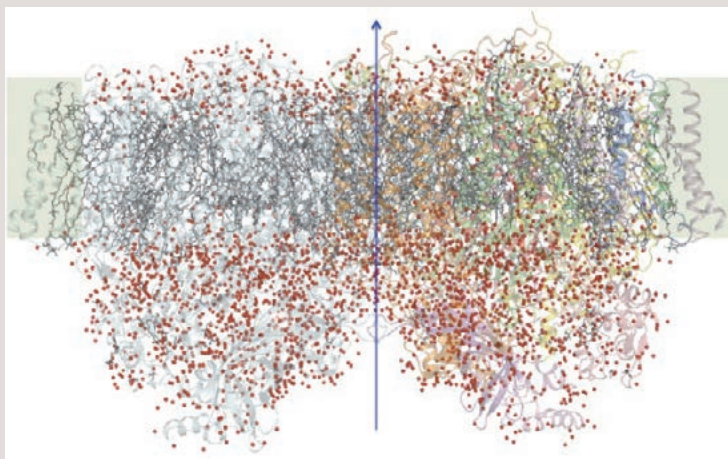


図1 光化学系 II の2量体の結晶構造。左右2個の単量体（総分子量350 kDa）が2重軸（中央の上向き矢印）によって関係づけられている。赤球は2量体を取り囲む水分子の酸素原子。

豊田章一郎博士之像除幕式

The Unveiling Ceremony for the Statue of Dr Shoichiro Toyoda

名古屋大学全学同窓会代表幹事

名古屋大学副総長

木村 彰吾

2024年10月10日に豊田章一郎名古屋大学全学同窓会名誉会長の胸像除幕式が豊田講堂において執り行われました。

豊田名誉会長は、2002年10月に設立された全学同窓会の初代会長に就任され2020年までお務めになられました。その後も名誉会長として引き続き全学同窓会にご尽力されました。会長のご退任の際に、永年のご貢献に対し全学同窓会として豊田名誉会長に感謝をお伝えする行事を計画しておりましたが、コロナ禍の影響でそれが叶わないまま2023年にご逝去されたため、今般名古屋大学と共同で豊田章一郎全学同窓会名誉会長を顕彰すべく胸像を建立し、胸像除幕式を執り行なった次第です。

胸像除幕式には、全学同窓会からは柴田昌治全学同窓会会長のほか、岡田邦彦顧問、内山田竹志副会長、齋藤英彦副会長、伊藤義人副会長、宮池克人副会長、西村今日子副会長が参加しました。

杉山直名古屋大学総長の挨拶に続き、柴田全学同窓会会長から挨拶をいただきました。杉山総長の挨拶では、全学同窓会の会長として入学式、卒業式で祝辞をいただいたことに謝意が述べられ、名古屋大学基金の設立にご尽力いただいたことや基金支援会の会長に就任し多大なご貢献をいただいたことへの感謝が述べられました。柴田会長の挨拶では、非常に責任感が強いという豊田名誉会長のお人柄を披露されながら、大学支援事業、ホームカミングデイや海外支



豊田章一郎博士之像

部の設立など全学同窓会へのご貢献に対する感謝を述べられ、同窓会をさらなる発展に導いていくことが述べられました。

杉山総長、柴田会長の挨拶に続き、ご遺族を代表して来賓として出席された豊田章男トヨタ自動車株式会社代表取締役会長からもご挨拶をいただきました。豊田会長からは胸像除幕式が開催されたことへの謝意が述べられ、学生たちの様々な姿を感じることができるこの場所で日本の未来を担う若者たちの成長を温かく見守ってくれると思うとお話しされました。

胸像除幕式を機に、あらためて豊田名誉会長のこれまでの名古屋大学全学同窓会へのご貢献に対し心から感謝を申し上げます。



除幕の様子



全学同窓会役員との集合写真

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

フィリピン支部 NUAL Philippines Branch

名古屋大学全学同窓会フィリピン支部創立10周年記念式典に参加して

名古屋大学全学同窓会副会長
伊藤 義人



1. はじめに

2024年12月14日（土）に、名古屋大学全学同窓会フィリピン支部創立10周年記念式典が行われました。10年前の2014年12月20日（土）に行われた創立記念式典は、豊田章一郎会長（当時）夫妻と濱口総長（当時）らと一緒に参加した思い出深いものでした。

今回の記念式典は創立式典と同じマニラ市内の Edsa Shangri-La, Manila Hotel で行われました。

12月13日（金）昼過ぎのフィリピン航空の便でセントレアから発ち、約4時間のフライトで夕方5時（日本時間6時）にマニラ空港に着きました。10年ぶりのマニラで、晴天で明るい雰囲気でした。しかし、ホテルの出迎えの車は、夕方の渋滞にひっかかり、ホテルに1時間半以上もかかって着き、すっかり暗くなっていました。

2. 創立10周年記念式典

フィリピン支部創立10周年記念式典プログラムはよく練られたものでした。式典の最初にフィリピンと日本の国歌が流されました。その後の挨拶では、挨拶者の両横の2面のスクリーンに挨拶者の写真とタイトルが表示されていました。

私に渡されたプログラムには、細かい時間配分も書かれており、私に割り振られた時間は3分でした。2人の男女の司会者（Engr. John Jowhell H. Villegas and Dr. Maria Kristina G. Alinsunurin）の紹介に従って、最初に開会の挨拶を現支部長のDr. TAN GANA Neil H. V（ネイル ハバコン タン ガナ、カランバ市立大学准教授、フィ

リピン大学医学部上級講師）さんは、予定された時間でされました。



支部長 Dr. TAN GANA Neil H. の挨拶

次に、駐フィリピン日本大使の、遠藤大使が、予定より少し長めの挨拶をされました。遠藤大使は和服姿の奥様と一緒に参加いただきました。

次に、杉山直名古屋大学総長のビデオ挨拶がありました。その後、私は用意した原稿より短くした挨拶をしました。10年前の創立式典を豊田章一郎会長夫妻が大変喜ばれたことと、2023年に亡くなられた豊田章一郎博士の胸像が豊田講堂に設置されたことなどを話しました。

次のフィリピン大学総長 Atty. JIMENEZ Angelo A は、びっくりするほど長く話されました。その後の副学長 Dr. CAMACHO Jose V.も同様に長い挨拶をされました。周辺の参加者に聞いたら、式典挨拶が長いのはフィリピン流だそうでした。

その後、集合写真を撮り、女性の歌の後で、名大への第1号留学経験者（農学部）の方の乾杯で祝宴が始まりました。

会食では、白ワインやジュースが提供されました。フィリピンはカトリック教徒が多く、創立式典では赤ワイン（キリストの血）が提供されましたが、今回は白ワインでした。ポテトサラダの前菜の後で、牛肉、シャケ、鳥肉、エビの揚げ物がのったメインプレートでした。その後、デザート（チョコレートケーキ、果物）も大ぶりのものが提供されました。

会食の後で、VIP への感謝状の贈呈を行った後で、



10周年記念式典の集合写真

Andres Winston Oreta(アンドレス ウィンストン オレタ、第4代支部長)さん作成の10周年記念のビデオが上映されました。

初代支部長の Cristino Miranda Collado (クリスティーノ ミランダ コリヤード)さんのクロージングの中で、豊田前会長への黙とうも行われました。

この後で、残った人たちでビンゴ大会が行われ楽しい会

になりましたが、終わりは15時で2時間半延長されたことになりました。

3. おわりに

フィリピン支部創立に尽力いただいた、名大の土木工学科で修士と博士を取られたオレタ(第4代支部長)さんは、骨折のため急遽入院され、今回の記念式典には欠席されました。久しぶりにお会いできるのを楽しみにしていましたが残念でした。

フィリピン支部は、創立されて10年ですが、支部長を順次交代して5人の方々が支部長を引き継ぎ、積極的な活動を継続して

います。それぞれが、支部設立のときに尽力された人たちで、全学同窓会の海外支部として、よい運営をされています。

2泊3日の強行日程で、3日は朝4時に起きて、空港に向かい帰国しました。記念式典に参加するだけになりましたが、懐かしい人たちにお会いでき楽しいひとときを過ごしました。フィリピン支部の方々に深く感謝いたします。

タイ支部 NUAL Thailand Branch

名古屋大学バンコク事務所10周年記念式典レセプションにて全学同窓会タイ国支部同窓生セッションの開催

2024年10月25日(金)、タイ国バンコク市内のホテルにて、名古屋大学バンコク事務所10周年記念式典レセプション「10th Anniversary of Nagoya University Bangkok Office and Beyond Together with Alumni Association」を開催しました。

本式典は杉山直総長、木村彰吾副総長、水谷法美副総長をはじめ、本学からの教職員は21名参加し、来賓は在タイ日本大使館、協定校、在タイ日本大学連絡会(JUNThai)の代表や本学の日本人・タイ人の同窓生ら、総勢101名参加しました。

式典は杉山総長により開会の辞からはじめ、集合写真を撮りました。次に在タイ日本大使館の西岡達史次席公使から祝辞の言葉を受け、交流会(懇親会)を開始しました。途中、水谷副総長よりバンコク事務所の

今までの役割と今後の展開について語り、木村副総長とタイ支部同窓会会長の Prof. Dr. Siriporn Wajjawalkuによりタイ支部同窓会の活動について説明しました。

第二部同窓生のセッションでは、同窓生たちは杉山総長、木村副総長、水谷副総長、各研究科の教員たちと気軽にお話する機会を設け、場は盛り上がりました。



同窓会セッションの集合写真

大学支援事業目録贈呈

令和6年11月13日(水)、令和6年度第3回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（令和6年度第1回）採択に目録が贈呈されました。

今回は、9件の応募から、表の4件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

所属・職名等	申請者	事業名
工学部・物理工学科・4年 陸上競技部・主将	中川 大輔	第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走
大学院工学研究科 (航空宇宙工学専攻)・教授	原 進	名大ものづくり教育における優秀な学生と成果物の米国内アピールプロジェクト (ノースカロライナ州立大学との交流協定締結40周年記念事業の一環として)
学生支援本部 キャリアサポートセンター 就職相談員	上村 奈月美	「留学生のキャリア支援のための ポッドキャスト」
大学院工学研究科 教授 (工学研究科創造工学センター長)	井上 剛志	第21回ものづくり・創造性教育に関するシンポジウム



授与式の様子



集合写真

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

仕事と子育ての両立を支援するための環境整備

申請代表者：永田雅子
(副総長（男女共同参画・多様性担当）
心の発達支援研究実践センター 教授)

本学では、男女共同参画事業の一環として、学内保育施設を設置し、職員および学生による仕事と子育ての両立を支援しています。東山キャンパス内のこすもす保育園(定員60名)は、生後57日～未就学児の保育を行うことで、子育て中の職員や学生のキャリアと生活、子どもたちの成長を支えています。保育園は、キャンパス東側の山手の緑に囲まれた場所に立地し、豊かな自然と触れ合

える環境にあります。園庭が手狭で子どもたちが体を動かして遊べるスペースが十分確保できていません。そのため園庭の遊具は、園児にとって体を使って遊ぶことのできる非常に楽しみなものであり、子どもたちの発達をうながしていくうえで重要な役割を果たしています。

しかし2006年の開園から16年が経ち、園庭に設置した滑り台の老朽化が甚だしく、塗装が殆ど剥がれ、園児が遊具で遊ぶ際に、怪我が危惧されるほどの状況になっていました。安全・安心な保育を提供し、子どもたちの発達を支える環境を整備していくことは必要不可欠ですが、大型遊具は購入にかかる費用も大きく、予算を確保することが難しかったことから、屋外遊具(滑り台)の新規

購入への支援をお願いさせていただきました。

今回、ぞうさんジムを寄贈いただいたことで、安全・安心な遊具が園庭に設置でき、多くの子どもたちが日々、園庭での活動を楽しんで過ごすことができるようになりました。かわいらしいぞうさんジムは子どもたちに大人気の遊具となっております。

同窓会には、2008年度にも子ども図書コーナー設置の際、ご支援をいただきました。いただいた支援の備品を大事に使わせていただきながら、これからも子どもの成長・発達を支えていきたいと思っております。



ぞうさんジム

「まちづくりとひとづくり part 2 —名大建築60年—

申請代表者：荒木慶一（環境学研究科 教授）

本事業は、名古屋大学建築学教室が1999年から毎年開催してきた市民向け講座「まちとすまいの集い」の25回記念であり、かつ、本年が名古屋大学建築学科創設60年に当たることから、その記念事業として開催したものです。事業は、市民や建築界への研究成果・教育成果の還元をはかるべく、これからの建築界を担う若手人材の育成の一環として高校生と建築を学び始めた学内の学部2、3年生を主な対象とした行事「第一部 フィールドセミナー・建築の魅力を伝える名古屋大学東山キャンパスの建物」と、建築を学んだ同窓生が社会で活躍する姿や、彼らが携わった具体的な建築作品を紹介する講演座談会「第二部 建築の魅力を創ってきた名大建築60年」の2つの行事を行いました。開催にあたり、全学同窓会から部局支援事業としての支援を受けました。

第一部は、高校生やその保護者、また、建築に関心のある市民、さらに同窓生の合計26名が参加しました。参加者は4班に分かれ、豊田講堂、博物館（古川記念館）、ES総合館、減災館の4棟を巡りながら、それぞれの分野の専門家である建築学教室の教員から建物のすばらしさ

について説明を受けました（写真）。参加者は、「門のないキャンパス」の魅力をはじめ、普段は入れない豊田講堂の特別会議室から見えるキャンパスの風景などいろいろな建物の魅力を堪能しました。参加者からは、「キャンパスの素晴らしさが分かった」「いい建物があることがわかった」という感想が寄せられました。

第二部は、建築学教室のOG/OB 合計7名（いずれも学外者）が、それぞれ卒業・修了後の活動を紹介したのち、大学での教育と社会に出た後の活動との関係を紹介し、最後に、現役生へのメッセージ、さらに教員への希望が出されました。「大学で受けた授業が就職してすぐに役立つわけではないが、しばらくしてから役立つことがあった」という指摘、さらに、「OG/OBと現役学生の意見交換の場を設定してほしい」という希望が出されました。参加者は67名でした。参加した現役学生からは、「OG/OBが多面で活躍していることがよく分かった」という旨の声がありました。



豊田講堂テラスでの説明を聞く参加者

在学生と卒業生をつなぐキャリアのプラットフォーム「ワタリニフネ」開設

申請代表者：船津静代
（学生支援本部キャリアサポートセンター 副センター長）

同窓会支援事業のご支援を得て、学生支援本部では「現役生のみならず、社会人になってからもキャリアについてつながり、相談しあえるプラットフォームを作りたい」という想いをきっかけに、これまでの就活サポーターの枠に留まらず、名古屋大学学生・卒業生と繋がる場を「ワタリニフネ」のLINE公式アカウントやLステップのプラットフォームを用いて運用しました。アカウントでは管理者からの情報の一斉配信や、オープンチャットでの交流を行うことが可能となっており、誰か

と話したり、話を聞いてもらえるコミュニティとなっています。SNS上の「ホッと一息付ける場」を提供する目的で2023年の開始から既に若手卒業生を中心に207名の参加者を得ています。転職サイトが運営する卒業生と現役生のコミュニティなどとの違いは、「ワタリニフネ」が参加時に本人確認および紹介者の提示を課すクローズドなコミュニティ運営を心がけていることで、卒業生そして現役生が安心して参加できるプラットフォームを目指しています。

母体となった「就活サポーター」活動は、就職が決まった学生が、これから就活をする学生の相談役となる活動を中心とした公認団体として活動しています。この活動は20年を越え継続しており、多くの卒業生がつながっています。また毎年のホームカミングデーでは学生支援本部と共同で若手卒業生による交流イベントを開催して、これからのキャリアについて考えてきました。「ワタリニフネ」ではこの活動をベースとして、随時座談会形式でのオンラインミーティングを開催し、一部は限定アーカイブとして残しています。このプラットフォームにより、ホームカミングデーでの年一回のイベントだけでなく「もっとこのような機会に参加したい」という声にもこたえられるようになり、キャリアや気になる話題についてフランクに交流し、限定アーカイブにより新たに参加したメンバーや企画に参加できなかったメンバーにも刺激となっています。現在も卒業生を中心にメンバーを増やし、活発なやりとりや交流がもたれています。本企画は若手同窓会集団の形成におおいに役立ち、今後の全学同窓会の発展に貢献すると考えます。今後も引き続き就職活動や卒業後まで視野に入れた長期にわたるキャリア形成を支援することで「国内外で指導的役割を果たしえる人材の養成を通じ、産業に貢献する」という同窓会の理念の実現につながるよう活動していきたいと考えます。



ワタリニフネ就職ガイダンス等紹介 OB 向け

名古屋大学高等教育研究センター 25周年記念国際シンポジウム 「高等教育研究と実践をつなぐ ～私たちが次の4半世紀にできること」

申請代表者：加藤真紀
(名古屋大学高等教育研究センター 教授)

名古屋大学高等教育研究センター（高セ）は「国際的な視野のもとに高等教育機関の戦略的課題の解決に貢献する」ことをミッションとして1998年に設立され2023年で25年になりました。設立以来、私たちは、国内外の研究者招聘等を通じて高等教育の探究や先駆的な教育実践を進め、国内外に知己を増やしてきました。この価値あるつながりを軸に、激変する社会の中での今後の高等教育研究およびその実践の架橋を探究する機宜とするために国際シンポジウムを2023年9月1日に野依記念学術交流館にて開催いたしました。対面のみの開催でしたが100名を超える申し込みを頂き、国内外の著名な研究者による講演やパネルディスカッションを日英同時通訳の下で実施いたしました。

第1講演はアリゾナ州立大学 教授／MLF ティーチャーズカレッジ副学部長イヴェタ・シロバ先生による「人新世における高等教育の未来：科学、芸術、想像の力を結集して」、第2講演は香港教育大学 教授／教育・人間発達学部長ブルース・マクファーレン先生による「高等教育における「伝統」の過去・現在・未来：神話を現実から切り離す」、第3講演は、早稲田大学 教授の黒田一雄先生による「高等教育の国際化と多層的グローバル・ガバナンスの展開－歴史と展望」、最終講演は名古屋大学名誉教授／桜美林大学 教授の夏目達也先生による「日本の大学における高等教育研究センターの可能性」でした。いずれもユニークな視点からの講演であり、「人類の時代」における高等教育やその研究がどのようにあるべきなのかを問う革新的な内容でした。また高等教育の実践や研究を支える組織の在り方を日本の高等教育研究センターを事例にお話いただきました。

パネルディスカッションでは講演者間の感想を共有し、フロアからの質問に答える有意義な時間となりました。Slido（イベントの参加者と双方向でQ & Aなどを行えるクラウドサービス）で集めたフロアの感想や質問（アリゾナ州立大学での取り組みに感銘を受けた、高等教育の国際化が世界の平和に貢献できる具体的な例や構

想を教えてほしい等) に対して講演者から回答いただきました。参加者アンケートでは、シンポジウムに対する高い満足度と、学ぶものがあつた、刺激を受けた、視野が広がつたとのコメントが示されました。全学同窓会のご支援をいただきシンポジウムを開催できたことに感謝の意を表します。



講演者記念撮影

名古屋大学助産学同窓会セミナー・交流会 「助産師の技をつなぐ」

申請代表者：八木琴美
(医学系研究科総合保健学専攻看護学コース 博士前期課程2年)

私たち大学院助産分野の学生は、全学同窓会からご支援をいただき、助産学同窓会セミナー・交流会を開催いたしました。今回「助産師の技をつなぐ」というテーマを掲げ、名古屋大学において100年以上の歴史がある助産分野の先輩方11名との交流を行いました。全学同窓会からのご支援により購入した最新の分娩介助モデルを用い、先輩助産師の熟練した分娩介助技術を学ぶことができました。女性の産む力を信じ、最大限にその力を引き出す助産師の技は、いつの時代においても重要です。特に少子化が進む現代において、いかに安全で満足度の高いお産ができるかは大切であり、そのための技術を教えていただきました。助産師の技は、経験により個性が出てくる職人技とも言えます。教科書では学びきれない個々の職人技を手取り足取り学び、引き継ぐことができましたと思います。

参加者の先輩方からは「自然なお産が少なくなるにつれ、助産師みんなで技術を磨く場が減ってきたように思います。技術の研鑽、伝達という意味でとても貴重な機会をいただきました」「若い方の熱意から、良い刺激を受けました。次世代の皆様の明るい未来が楽しみです」「年

齢を重ねるにつれて職場で先輩に質問しづらくなっていたため、普段聞けないことを学べてよかったです」との声をいただきました。私たち学生が技術を学ぶだけではなく、互いに刺激を受け、技術を研鑽する場となり、とても有意義な交流事業となりました。

さらに「またぜひ開催してほしい」との声が多数あがり、次につなぐきっかけを作ることができたと思います。私たち学生から次の世代の後輩へと引き継ぎ、名古屋大学の助産学における技を伝承していきたいです。今後、名古屋大学助産学同窓会にも開催内容について報告していく予定です。

ご支援いただきました全学同窓会の皆様や、推薦者の入山茂美教授をはじめ、ご協力いただきました皆様に心より感謝いたします。



先輩助産師達との交流会の様子

「名大ピア・サポート活動における障害のある学生の理解促進と大学間交流」

申請代表者：杉岡正典
(学生支援本部／心の発達支援研究実践センター 准教授)

学生支援本部では、学生同士によるサポート活動を行う「名大ピア・サポーター」の養成や運営の支援を行っています。「名大ピア・サポーター」は、「学生相談サポーター」、「就活サポーター」、「障害学生支援サポーター air (あいる)」の3団体によって構成されています。今回、全学同窓会から支援を受けて、この3団体が共同して「障害のある学生の理解促進と大学間交流」を行いました。

具体的には、障害のある学生支援や多様性に関する理解促進を目的とした勉強会・意見交換会を行い、その成果を全国ピア・サポート合同研修会にて発表しました。全国ピア・サポート合同研修会は、全国の大学のピアサポート団体が集まり、研修や情報交換を行う年に一度の

集まりのことです。今回は北海道にある北星学園大学で2日間開催されました。名古屋大学からはピアサポーター14名と教職員6名が出席し、学生を主体としたワークショップやポスター発表を行いました。

ワークショップでは、「障害をもつ学生へのサポート」をテーマとし、発達障害をもつ学生が学内にいた場合に、学生同士で何ができるのかを考えるという企画でした。当日は、社会福祉士の資格取得を目指す学生や障害に関して関心のある学生など、全国の大学から多数の参加がみられました。参加者の感想として、「発達障害というのは知っていたが、学内で自分がその人たちに何ができるのかは考えたことがなかったので勉強になった」「自分たちの大学でどのような障害者支援が行われているか知らなかったの、知れて良かった」などがあり、ワークショップの趣旨が参加者に伝わり、参加者にとって意義のある体験となったことが窺えました。

研修会に参加した名大ピアサポーターからは、「様々なプログラムを通して交流が行われました。特に活動内

容を紹介し合うポスター発表会では、同じピアサポートでも大学ごとに特色があり、支援の在り方の多様性を目の当たりにしました。名大サポの独創性と改善点の双方を知ることが出来ました。」「今後は各団体の取り組みに学びつつ、学サポらしさを大切にしながら安定して活動を継続できるように工夫していきたいです」といった感想がみられました。他大学のピアサポーターやスタッフと交流できたことは、本学ピアサポーターにとって、大きな意義のある体験となったと思われます。

その後、学生支援本部の学内イベントにて研修会の報告をし、本活動の成果を冊子にまとめて関係者に配布しました。



学生セッションの様子

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関西支部

第16回名古屋大学全学同窓会 関西支部総会

日 時：2025年5月17日（土）

14時～ 講演・支部総会（受付開始13時）

17時～ 懇親会

場 所：中央電気倶楽部（大阪市北区堂島浜2丁目1番25号・電話06-6345-6351）

講 演：講師 杉山 直（名古屋大学総長）
演題 「光の宇宙と暗黒の宇宙」

参加対象：名古屋大学全学同窓会会員とご家族

連 絡 先：名古屋大学全学同窓会関西支部

事務局長 脇田喜智夫

（電話075-253-0777 御所南法律事務所）

*交流会 ラ・ローゼ・プロヴァンス（プラザ1階）

（岐阜支部事務局：2019nugaa@gmail.com）

○名大遠州会

名大遠州会第26回同窓会

日 時：2025年5月31日（土） 18：00～

場 所：ホテルクラウンパレス浜松

連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎

E-mail：enshuszk@yahoo.co.jp

○関東支部

名古屋大学男声東京 OB 合唱団演奏会

名大男声東京 OB 合唱団の5回目の単独演奏会を開催します。
（入場無料）

日 時：2025年5月17日（土） 開場：13：30、開演：14：00

場 所：三鷹市芸術文化センター「風のホール」

連絡先：新井清隆

E-mail：araikyt0217@yahoo.co.jp

○岐阜支部

岐阜支部2025年度総会・講演会・交流会

詳細は追って HP 等でお知らせしますので、ご予約下さい。

日 時：2025年5月24日（土） 14：30～18：30（予定）

場 所：じゅうろくプラザ5階大会議室（JR 岐阜駅隣）

<http://plaza-gifu.jp/>

* 総会

* 講演会「持続可能な社会を語る」

講 師：塩崎智子

（十六フィナンシャルグループ取締役執行役員）

「金融機関におけるサステナビリティへの取り組み」

李 小平（森ビル株式会社設計部チームリーダー）

「大規模開発における省エネ、環境共生の取り組み」

（講演タイトルはいずれも仮題）

東京キタン会 / 定期総会報告会・講演会・懇親会

総会審議結果のご報告後に、講演会、懇親会を開催します

日 時：2025年6月28日（土） 11：00～

場 所：都内

連絡先：事務局長 千本 t-chimoto@nifty.com

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支 援 会 員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

●住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先：名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当

052-747-6559 (9:00~16:00) sotugyoumeibo@t.mail.nagoya-u.ac.jp

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～ 名古屋大学カードで繋がる大学支援 ～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード ～ ゴールド ～

入会者は**21,000**名を超えています。



年会費永年無料！
ポイントがたまる！

家族会員様も1名様に限り無料。

家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

① WEB からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00~17:00)

●カード優待サービス企業の紹介 <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html>

●カード優待サービスの企業を募集しています。 詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

ホームカミングデイが早くも20回を迎え、例年にも増してにぎやかな様子をお伝えすることができました。また、豊田講堂に建立された豊田章一郎名誉会長の胸像は、学生たちを見守り続けることでしょう。本同窓会へのますますのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(全学同窓会広報委員会)

NUALNewsletter

No.43 令和7(2025)年3月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市中種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@t.mail.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会

